

4月月例研修会

幻の大仏鉄道跡を巡る

予報降雨率40%。当日の朝は生憎の小雨模様、この時季にしては真冬並みの低温、お花見ハイクとしては無情の一日となる。想定内ではあったが参加者も11名と淋しさはあったものの藤田会長始め、山本 妙子さん、岡崎 節子さんなど勇者が揃う。

この大仏鉄道とは大仏詣での足として明治31年から開業。鉄道事業の発展に伴う関西本線の奈良駅乗り入れを機に僅か九年間で廃線となる。既に鉄路は撤去され痕跡は消えたが、煉瓦作りの橋台(アボット)や隧道が往時のまゝ残されている。

JR木津駅東口からスタート。小さな村落を抜け鹿背山に向け歩く。小川に架かる「燈台橋」の常夜灯、橋の袂に道祖神か身代わり地蔵が立ち、峠道の大屋敷の桜の老木が春を惜しむかの様に散り始める。大樹になるのは「エドヒガン」が多いと言う。

間もなく鹿背山。古寺の西念寺を通り、濡れた足元に注意を払いながら標高差80米ほどの山道を登る。頂きの平坦部から見る眺望が素晴らしい、京の西山、近く鷲峰山、眼下に雄大な淀に向けて木津川の流れ。ここは戦国の謀将 松永久秀の出城として有名、堅牢な石積みの防壁に往時を偲び、安らぎのひとときを楽しむ。

山を下り、柿畑、田園地帯を過ぎて「鹿背山不動尊」に着く。山肌に不動明王が鎮まり古刹の雰囲気漂う。裏山に「しょんべたれ地蔵」大きな岩に刻した仏の表情に靈気を感じる。「しょんべ」とはこの地方の方言で夜尿症に効験があると言う。もう一体、こちらは「春日のおばはん」。都の鬼門にあり守護の仏とされる、お腹がふっくらと出ているのでこの名があるとか。



午後からは雨も上がりお目当ての遺構を見て歩く。「梶ヶ谷隧道」「鹿背山橋台」「観音寺橋台」など煉瓦作りに明治の匂いが溢れ、今にも橋上に蒸気機関車が現れるのではと、そんな雰囲気すら憶える。

時は移り、この辺りまで住宅地開発が進み、新道が増え、桜並木が消え、様相が変わりつつある今日、鉄道遺構も呑みこまれる危機にあると言う。明治の文化遺産も時代と共に伝承だけが残されてゆくのであろうか。そんな思いを感じる一日であった。

加茂駅に向かう頃には晴れ間も広がり、少し恨みを抱えながら駅前の公園で締める。世話役の寺田さん、青木さん、ご苦労さん。



(川井 秀夫)